

教職課程自己点検・評価シート

3; 適切に実施している  
 2; 十分に実施していない・改善検討の必要がある  
 1; 実施していない・改善の必要がある

評価項目1: 教育理念・学修目標

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)
1-1	全学教職課程 研究科・学科等	教員の養成の理念および当該理念を達成するための学修目標が明確な形で設定されているか。	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ	2
1-2	全学教職課程 研究科・学科等	学修目標について、学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ	2
1-3	全学教職課程 研究科・学科等	教職課程での学修成果や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	教職課程履修の手引き 資格課程(教職課程)webページ	2

<1の報告事項> (現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)  
 教職課程のカリキュラムマップ・ツリー等は、授業科目の設計のために策定し、活用している状況である。学生の意見収集は行った。都道府県教育委員会の教員育成指標との関連性について検討を行う必要性を確認した。学生の資質能力の獲得について、教職ポートフォリオ(履修カルテ)をもとに把握を行った。  
 (評価できる点)  
 教員の養成の理念と達成するための学修目標については、適切に設定され、教職課程の各科目シラバス(webページ公開)にて具体的な目標を示している。  
 (改善を要する点とその改善方策・改善状況)  
 今後HP等で学生に向けて公開していくにあたり、情報のユーザビリティを向上させる方法を検討する必要がある。  
 学生の資質能力の獲得については、都道府県教育委員会の教員育成指標との関連性について検討を行う必要性を確認した。

評価項目2: 授業科目・教職課程の編成及び実施

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価 (3,2,1)
2-1	全学教職課程	複数の教職課程における授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成が適切に行われているか	教育に関する基礎的科目等の 教育課程表	3
2-2	全学教職課程 研究科・学科等	ICT環境、模擬授業用の教室、関連図書など、教職課程の学びに必要な施設・設備が整備されているか	教科用図書の整備 設備一覧	3
2-3	全学教職課程 研究科・学科等	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか。教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	各学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の教育課程表	3
2-4	全学教職課程 研究科・学科等	教員として身に付けることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して、各科目間の役割分担が適切に図られているか	シラバスの講義計画	3
2-5	全学教職課程 研究科・学科等	キャップ制をふまえたうえで、卒業までに修得すべき単位を有効活用して特色ある教職課程教育を行っているか	キャップ制に関する説明 …学生便覧	3
2-6	全学教職課程 研究科・学科等	学修成果や自己点検・評価の結果等をふまえて教育課程の充実が図られ、適切な見直しが行われているか	教職課程での学びに関する満足度調査 教職課程自己点検点検評価シート	2
2-7	授業	シラバスの作成状況 シラバスに教職にかかわる授業科目の目的や到達目標・内容が明確に設定されているか。 授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容が記載されているか	シラバス	3
2-8	授業	到達目標に応じて、アクティブラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	シラバス	3
2-9	授業	学修成果や授業改善アンケートの結果をふまえて個々の授業科目の適切な見直しが行われているか	授業改善アンケート	3
2-10	授業	教育実習、学校体験活動、教職実践演習が事前事後指導を含め適切に行われているか ・教育実習を行ううえで必要な履修要件を設定しているか ・地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けているか	当該授業科目のシラバス 実習の手引き	3

<2の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)  
 教育に関する基礎的科目等は2学部3学科で共通開設されている。教職支援センターにて教科用図書や学習指導要領、教育新聞等を整備している。  
 文科省による令和5年度教職課程認定基準等に関する説明に基づき、高等学校教諭一種免許状(情報)の教科及び教科の指導法に関する科目の見直しを行っており、授業内容としてICT活用について扱っている。教科教育法においても、教員による実演という意味でICTを活用した授業を行っており、その他の教職科目においても適宜ICT活用と実践を進めている。  
 ポータルで「アクティブ・ラーニング科目一覧」が提示されており、各授業の手法が明示される中に、教職課程の科目の位置づけも示されている。  
 コアカリキュラムに即したシラバスの書き方に従い、具体的なアクティブ・ラーニングの手法が明記されている。教育実習を行ううえで必要な履修要件を「3年次までに修得が必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位と、実習教科の指導法にかかわる必修科目の単位をすべて修得していること」と設定している。

(評価できる点)  
 ICT環境についてはTeamsアプリを含め、学内のものを利用して対応しており、授業科目の目的や到達目標・内容を明確に示している。  
 昨年度策定した自己点検評価シートにもとづき、教職課程の内部質保証点検を行った。アクティブ・ラーニングについては、全学的に推進されている。  
 各授業で中間と最終に授業改善アンケートを実施し、個々の授業科目について授業の改善をはかっている。  
 地域の教育委員会や学校と協力して、最新の事情について学生が理解する機会を設けている。  
 (改善を要する点とその改善方策・改善状況)  
 必修科目との重なりなどにより他の教育課程との時間割の調整に苦慮しているため、重複教職科目の複数時間開講等により対応していく。教職専用の設備充実が今後必要である。教職課程に関する改正にあわせ、「情報」の教科専門科目の科目区分の統合や削除等を行うとともに、教科及び教科の指導法に関する科目の見直しを行い、その他の科目でも授業におけるICT活用を進めていく。引き続き、学科専門科目の状況を考慮に入れながら特色ある教職課程教育を行う。引き続き、自己点検評価シートに基づき質保証点検を行っていく。教職に関するシラバスについても、統一的な記載が行われているものの、引き続き点検を行い、情報のユーザビリティを向上させる方法を検討していく。教職課程の科目については、教務係がアンケート結果を確認して個々の授業科目の問題点を把握し、教職支援センター運営委員会において情報共有をはかっているが、これからも適切に指導が行われているか継続して点検していく。

評価項目3;学修成果の把握・可視化の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
3-1	全学教職課程	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価のガイドライン(全学共通のものを適用)	3
3-2	全学教職課程 研究科・学科等	教員養成の目標の達成状況を明らかにするための確認指標が適切に設定されており、教職実践演習に向けて「教職履修カルテ」を適切に活用できているか	教職履修カルテ コメント入力例	3
3-3	授業	成績評価の状況 ・各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的または定性的に達成水準を明らかにし、 厳格に点数・標語に反映することができているか ・公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ 明確になっているか	シラバス	3

<3の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)

(現在の状況)  
 成績評価のガイドラインが全学的に策定され、教職課程の各科目ではコアカリキュラムに即した具体の評価基準が公表されている。  
 点検の結果、学修目標変更にもなう再検討を早期に行う必要があることが確認された。  
 教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用し、配点割合、成績評価基準について、シラバスに明記している。  
 (評価できる点)  
 教職課程の各科目ではコアカリキュラムに即した具体の評価基準について点検の上、改訂が行われた。  
 教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用して、各学生の教職履修上の課題について個別に指導を行っている。  
 (改善を要する点とその改善方策・改善状況)  
 現状で問題ないので、引き続き点検していく。教職課程の各科目ではコアカリキュラムに即した具体の評価基準について、次年度に教職支援センター運営委員会で再検討を行い、確認指標の設定、文言の修正などを行うことが決定した。

評価項目4;教職員組織の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
4-1	全学教職課程	必要専任教員数を充足しているか 授業担当者がその授業科目を担当するのにふさわしい研究業績を有しているか 実務経験を有する教員を配置しているか	担当教員交代・任用時の審議議事録 教職課程変更届	3
4-2	全学教職課程	教職課程を適切に運営するための組織を設け、必要な教員・職員を配置し、役割・機能を明確化しているか	組織図、教職支援センター規程 教職支援センター運営委員会規程	3

4-3	全学教職課程	教職課程全体の質的向上につながるFD・SDが行われているか	<p>教務系職員初任者向け講習会(教職編)(6/11) 2022年度第1回京私教協教員免許事務勉強会(6/25) 教員免許事務担当者講習会(9/10) 2022年度大学教務実践研究会第10回大会(12/17)</p> <p>----- 【以下学内通知メール】 教職員各位</p> <p>本年度のFD・SD研修を次のとおりオンラインにて開催いたします。 お忙しいとは存じますが、ご参加いただきますよう、お願いいたします。</p> <p>日 時:2022年11月17日(木)16:30~18:00 テーマ:「オンライン授業の現状と課題、今後の展望について」 講 師:関西大学教育推進部 岩崎 千晶(いわさき ちあき)教授 対象者:本学教職員</p> <p>当日は下記URLから入室してください。 <a href="https://zoom.us/j/91743928232?pwd=cHNBQStydVdzQjdRVnNrNzdVY2h5Zz09">https://zoom.us/j/91743928232?pwd=cHNBQStydVdzQjdRVnNrNzdVY2h5Zz09</a> ミーティングID: 917 4392 8232 パスコード: 202471</p>	3
-----	--------	-------------------------------	---	---

<4の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)				
<p>(現在の状況) 教職科目の非常勤講師については、担当教員を交代する際に公募制とし、業績審査も行っている。実務経験を有する教員は、経済情報学科3名、日本文学科1名、美術学科14名配置されている。教職課程を適切に運営するための組織を設けている。 組織図・規程・委員会規程を確認し、役割・機能が明確化していることが確認された。全学的なFD研修会へ参加するなどの方法をとっている。また、教職関連の授業内では、「教育実習指導」など複数担当の科目があり、FDの場となっている。教職課程独自のFDではないが、教職課程の課題でもある「オンライン授業の現状と課題、今後の展望について(仮)」というテーマでFDを行った。</p> <p>(評価できる点) (改善を要する点とその改善方策・改善状況) 必要専任教員数の充足は、各学科の人事の動向と合わせて検討すべき事項となっている。令和4年度は、教職課程の認定基準と照らし合わせながら、学科人事のサポートを行った。全学的なFD研修会へ参加するなどの方法をとっている。また、教職関連の授業内では、「教育実習指導」など複数担当の科目があり、FDの場となっている。非常勤講師を含む教職課程独自のFDの設定の必要性については今後、検討する必要がある。</p>				

評価項目5:情報公表の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
5-1	全学教職課程	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行われているか	資格課程(教職課程)webページ	2
5-2	全学教職課程	必要な資質能力を備えた学生を育成できているか、エビデンスとともに説明できるか	年次ごとの教職履修者数の推移(教職支援センター紀要掲載情報)	3
5-3	全学教職課程	根拠となる資料やデータを示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の結果を公表することができているか	資格課程(教職課程)webページ	2

<5の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)				
<p>(現在の状況) 教職課程に関する情報の公表に向けて、フォーマットを策定し、内容を整理を行っている。教員就職者数を『教職支援センター紀要第4号』に公開している。自己点検・評価シートにもとづき、根拠となる資料やデータを作成・整理を行っている。</p> <p>(評価できる点) 1年次末から4年次末の「質能力の自己評価」がどのように向上したかを調査し、『教職支援センター紀要第4号』に公開している。</p> <p>(改善を要する点とその改善方策・改善状況) 教職課程に関する公開情報を点検精査し、情報のユーザビリティを向上させる方法を検討する必要があるため、引き続き、教員就職の状況を公開する。資質能力の獲得状況を調査し、自己点検・評価シートもその根拠となる資料やデータを作成・整理して公表していく。</p>				

評価項目6:教職指導(学生の受け入れ・学生支援)の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
6-1	全学教職課程	教職課程に関する積極的な情報提供ができているか	教職ガイダンス資料	3
6-2	全学教職課程 研究科・学科等	個々の学生の教職に対する意欲をふまえて、履修指導を行っているか	教職履修カルテ 学生の入力と教員のコメント例	3
6-3	全学教職課程	学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	キャリアサポートセンターの 学内説明会・報告会案内等	3

<6の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)				
<p>(現在の状況) 各学年の学期始めに教職ガイダンスを行い、教育実習・学校体験活動・介護等体験に参加するための説明会を、4月当初に行っている。教育実習については、実習実施前年度から各学期に1回行っている。 キャリアサポートセンターと連携して教員採用試験説明会や教員採用試験報告会を行っている。教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用して、各学年始めに個別指導を行っている。また、適時、個別の履修相談に応じている。 4年次の教職実践演習で、教職ポートフォリオ(履修カルテ)を活用した振り返りを行っている。また、県教育委員会による教員就職説明会や学生による教員採用試験合格者報告会を開催している。</p> <p>(評価できる点) ガイダンス参加を徹底するため、ポータルサイトやコミュニケーションツールを通じた情報提供を行い、欠席者への対応を行っている。 キャリアサポートセンターと連携し、教員就職のための情報をポータルサイトやTeamsを活用して提供している。</p> <p>(改善を要する点とその改善方策・改善状況) 引き続き、教職課程学修の各時期の応じたガイダンスを実施する。 また、教員採用試験への対応を、キャリアサポートセンターと連携して充実させていくとともに、教員就職の情報提供及び各種説明会の開催を行っていく。</p>				

評価項目7:関係機関等との連携の状況

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)
7-1	全学教職課程	教員の採用を担う教育委員会等と連携・交流を図り、教育課程や学生指導の充実につなげることができるか	学内説明会資料等	3
7-2	全学教職課程 研究科・学科等	教育実習・学校体験活動・学校ボランティア等を実施する学校と連携・協力を図り、実習や体験活動の適切な実施につなげることができるか	実習校へのアンケート 学校関係のボランティア報告 (教職支援センター紀要に掲載)	3
7-3	全学教職課程 研究科・学科等	学内外の諸機関との連携のもと、教育課程を充実させるために多様な人材をゲストスピーカー等として活用することができるか	教職実践演習実施内容 (教職支援センター紀要に掲載)	3

<7の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)				
<p>(現在の状況) 県教育委員会による教員就職についての学内説明会を実施している。 尾道教育委員会及び市内中学校・高等学校の教育活動や教育研究に本学教員が参加し、教員養成についても協議を深め、実習や体験活動の充実に関与している。 教職実践演習の授業で、地域の中学校・高等学校の教員をゲストスピーカーとして招いている。</p> <p>(評価できる点) 市教育委員会や地域の高等学校と協議して、学校体験活動や教育実習のシステムの改善と円滑な運用を行っている。地域の中学校・高等学校と協議して、学校体験活動や教育実習の内容と指導のあり方について共通理解を得ている。教科教育法の授業で、地域の中学校・高等学校の教育研究会へ、学生を引率して参加している。</p> <p>(改善を要する点とその改善方策・改善状況) 引き続き、県教育委員会による教員就職についての学内説明会を実施し、尾道教育委員会及び地域の中学校・高等学校との連携・交流を行う。 市教育委員会や地域の高等学校と連携して、学校体験活動や教育実習のシステムの維持・改善を図る。地域の中学校・高等学校と協議して、学校体験活動や教育実習の学びの質の充実を図るため、地域の中学校・高等学校の教育研究会へ、学生を引率して参加を進める。今後も地域の教育現場からゲストスピーカーを招く。</p>				

評価項目8:その他必要と認められる事項

NO	レベル	点検項目	評価の基礎となる資料	自己評価(3,2,1)

<8の報告事項>(現在の状況、評価できる点、改善を要する点とその改善方策・改善状況)				